

アンバサダーライダー・高田茉莉亞と佐々紫苑の

欧洲馬術レポート

週刊 Gallop 2019年 10月号掲載



明松寺馬事公苑所属

◆佐々紫苑

(さっざ・しおん)

1995年東京都生まれ。早稲田大学卒。2012年全日本ジュニアライダー総合馬術選手権優勝。15、16年全日本ヤングライダー総合馬術選手権連覇。大学では4年連続で学業優秀賞を受賞。17年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。

私は最も人気の高い競技、クロスカントリーの応援に行きましたが、最近のオランダの天候は雨続きでグラウンドはとてもベストといえる状態ではありませんでした。逆に例年に比べて気温が低かったので、そのあたりは全長5800㍍を分速570㍍で駆け抜ける馬と選手にとっては好条件だったと思います。スケールの大きなフェンスが次から次へと続くコースは広すぎて、地図がなければ迷ってしまうほど。日本代表の3選手は無事にこの難関コースを完走し、翌日のジャンピングを終え、見事団体3位という成績を収めました。この波に乗って、東京オリンピックへ加速開始！ 次回はこの大会の会場で見つけた楽しい様子をお話しますね。



スタートの瞬間の大岩選手
(佐々選手撮影)

馬耳蘭風 —オランダ奮闘記—

佐々紫苑

Shion Sassa



先日、オランダのブッケローで総合馬術のネーションズカップが開催されました。この大会は国別対抗戦で、東京オリンピックの出場権を獲得するための大変な大会です。開催国である日本はすでに出場権を持っていましたが、大会に臨む選手の気迫と緊張はどの国も同じ。総合馬術本部長の細野監督率いる日本チームは、オリンピック経験者の大岩義明選手と根岸淳選手、そして戸本一真選手の3選手が出場しました。

私は最も人気の高い競技、クロスカントリーの応援に行きましたが、最近のオランダの天候は雨続きでグラウンドはとてもベストといえる状態ではありませんでした。逆に例年に比べて気温が低かったので、そのあたりは全長5800㍍を分速570㍍で駆け抜ける馬と選手にとっては好条件だったと思います。スケールの大きなフェンスが次から次へと続くコースは広すぎて、地図がなければ迷ってしまうほど。日本代表の3選手は無事にこの難関コースを完走し、翌日のジャンピングを終え、見事団体3位という成績を収めました。この波に乗って、東京オリンピックへ加速開始！ 次回はこの大会の会場で見つけた楽しい様子をお話しますね。

Let's enjoy Dressage

高田茉莉亞

Maria Takada



サマータイムが終わり、いよいよ冬へのカウントダウンがスタート。厩舎周辺の木々の葉も色づきはじめ、朝晩はダウンジャケットが手放せないほど寒くなりました。

さて先日、ドイツをはじめヨーロッパの競馬場で撮影を行っているフォトグラファーの佐々木賢之介さんに出会い、私の厩舎に『馬場馬術』の撮影に来ていただきました。馬術の撮影は初めてだったそうですが、やはり競馬と通じるものがあるようで、撮影後には馬トーキで盛り上がりました。

話をうかがっていて興味深かったのは「ドイツの競馬場は家族連れが多い」こと。草むらでピクニックをしながら大人も子供も気軽に競馬観戦を楽しめるそうです。ドイツで有名な競馬場といえばバーデンバーデンでしょうか。機会があれば休みの日に行ってみたいと思います！



アイリッシュアラン乗馬学校所属

◆高田茉莉亞

(たかだ・まりあ)

1994年東京都生まれ。慶應義塾大学卒。2010、11年に全日本ジュニアライダー馬場馬術選手権連覇。16年の全日本ヤングライダー馬場馬術選手権で史上初の4連覇を達成した。17年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。



トレーニング中の風景を撮影していただき
©Kennosuke Sasaki



トレーニング後、愛馬を褒めている瞬間
©Kennosuke Sasaki